

【退職強要の記載例】

〇〇年〇〇月〇〇日

山梨県労働委員会

会長 〇〇 〇〇 様

申請者 〇〇 〇〇

※個人の場合は氏名、
法人の場合は法人の名称及び代表者の職・氏名を
記載してください（押印不要）

あ っ せ ん 申 請 書

次のとおり個別的労使紛争に係るあっせんを申請します。

労働者	住 所	〒000-0000 〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号	電話番号	000-000-0000 ※常に連絡のとれる電話番号
	氏 名	〇〇 〇〇	雇用形態	正社員（アルバイト、パート等）
使用者	事業所の所在地	〒000-0000 〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号 ※労働者が働いている(いた)事業所の所在地	事業所名	〇〇株式会社〇〇支店 (支店長〇〇 〇〇) (電話〇〇部〇〇課〇〇係 000-000-0000)
	本社等の所在地	〒000-0000 〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号 ※本社等の所在地	本社等の名称	〇〇株式会社〇〇本社 (電話000-000-0000) ※本社等の名称
	代表者の職・氏名	代表取締役〇〇 〇〇 ※社長など代表者の職・氏名	事業の種類	製造業 ※業種
あっせん事項		職場復帰する気はないが、退職強要についての謝罪と損害賠償を求める。		
当事者の主張	労働者	退職強要により、精神的、身体的に苦痛を受けた。		
	使用者	関連部署の責任者と共に、大量不良品が生じた原因の聞き取りを行っていた。 「原因が分からないのなら退職したらどうか。」と言ったが、強要はしていない。		
申請に至るまでの経過		〇年〇月〇日 以降、工場長として勤務していた。 〇年〇月〇日、〇日 大量不良品の返品があった。 同年〇月〇日 本社に呼び出され、社長ほか数名に取り囲まれて、「どのような品質管理をしているのだ。どう責任をとるつもりだ」などと6時間にもわたり詰問された。「もう一度チャンスをください」と言っても、聞き入れられず、「退職届を書け、書くまで帰さない」と言われたので、やむなくその場で退職願を書いた。 同年〇月〇日 社長に連絡をとり、今回の不当な退職勧奨について謝罪と補償を求めたが、聞き入れてもらえなかった。		
参考事項		同年〇月〇日、山梨県中小企業労働相談所の相談を受けた。 労働契約書（有・無） 就業規則（有・無） 労働組合（有・無） 就業開始日 〇〇年〇〇月〇〇日（勤続年数〇年） 対応者 社長 〇〇 〇〇		